

いわて復興だより

がんばろう！岩手、つながろう！岩手

三陸復興

第48号
(平成25年9月15日号)
岩手県

復興に向けて歩んでいる岩手の今を紹介します

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波。発災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます。この「つながり」を大切にしていきたいと思っております。

秋風が爽やかな、過ごしやすい季節になりました。復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します。

『トモダチでありがとう～東日本大震災津波岩手県復興報告～』

米国・ニューヨーク市で開催

また、米国国務省海外担当のドリュー・シャフレットスキー氏、米日カウンシル理事のゲーリー・モリワキ氏からスピーチを頂いた後、達増知事より両氏へ感謝状を贈呈、米国在住の歌手・八神純子さんによるミニコンサートも行われました。

第2部のレセプションでは、岩手県の特産品である岩手牛、お米、地酒などがふるまわれる中、復興写真展をはじめ、岩手県民謡協会による演奏や「盛岡さんさ踊り」を披露。来場者は、復興に向けて前進する岩手県の力強さを感じている様子でした。

8月27日(火)(日本時間:8月28日)には、ワシントンD.C.にて、米国国務省のジェームス・ズムワルト国務次官補代理を達増知事らが表敬訪問。震災後の「トモダチ作戦」等、米国からの復興支援に対する御礼を述べました。

ズムワルト国務次官補代理からは、「米国のレスキューチームを大船渡に派遣できうれしい。今回の支援が日米のつながり、同盟の深さを示すきっかけとなった」等、岩手県への思いが語られました。



英語による達増知事のスピーチ

8月26日(月)(日本時間:8月27日)、県は、米国ニューヨーク市のジャパン・ソサエティーにて、『トモダチでありがとう～東日本大震災津波岩手県復興報告～』を開催しました。

これは、岩手県の復興支援に御尽力いただいた米国の皆様に深い感謝の意をお伝えするとともに、復興に向けて立ちあがる岩手県の姿を発信することを目的に行われたものです。

会場入口で「Thank you TOMODACHI」のカードを掲げた岩手県の高校生が笑顔で出迎える中、米国関係者や日本人駐在員等の招待客200名あまりが参加しました。

第1部の講演では、達増知事が、米国の「トモダチ作戦」をはじめとした復興支援への感謝と、復興へ向けての岩手県の取り組みを英語でスピーチ。



来場者を笑顔で迎える岩手県の高校生



国務省表敬訪問の様子

『いわて復興インデックス報告書(第7回)』のデータから

沿岸被災12市町村を中心とした県の復旧、復興の現状や、その推移を把握するためのデータを定期的に取りまとめている「いわて復興インデックス報告書」。今回は第7回(平成25年7月末時点)結果から、主なデータを紹介します。

がれき処理の進捗率(平成25年7月末時点)

▶進捗率62.3%(平成25年4月末時点:43.2%)
処理ペースが上がってきており、復興加速が顕在化している。

産地魚市場水揚量(平成25年4月から6月までの累計)

▶18,110トン

昨年同期間との比較では24.3%増加している。
また、震災前の平均値の86.1%まで回復してきている。

主要観光地入込客数(平成25年4月から6月まで)

▶1,767,900人回

昨年同期間よりも1.1%減少したものの、震災前(平成22年)同期間比で6.7%増加している。

いわて復興応援団(員)大募集中!



首都圏等にお住まいの方を対象に、応援団員(個人)と応援団(法人及び団体)の登録を募集しています。登録者には岩手県の復興の取り組みや観光・物産・首都圏でのイベント情報などをお届けします。

詳しくは岩手県東京事務所ホームページをご覧ください。

知って、買って、食べて、行って応援!

登録無料

いわて復興応援団

検索

「釜石よいさ」が3年ぶりに復活

9月7日（土）、震災後途絶えていた釜石市の夏祭り「釜石よいさ」が開催され、色とりどりの衣装に身を包んだ市民など約800人が、「さーさ、よいやっさ」と威勢のいい掛け声に合わせて、笑顔で目抜き通りを練り歩きました。

釜石よいさは釜石の夏の風物詩として人気を集めていましたが、東日本大震災津波で中断。その中「祭りであちを元気づけてほしい」と再開を望む声が強まり、3年ぶりの復活となりました。

ステージでは、地元の郷土芸能・桜舞太鼓や只越虎舞に加え、大槌町の歌手・白澤みさきさんなどのライブもあり、祭りを彩りました。



「釜石よいさ」

「三陸大船渡さんまつり」開催

9月8日（日）、全国有数のさんま水揚げを誇る大船渡市で「三陸大船渡さんまつり」が開催されました。

当日は、朝から雨のあいにくの天候でしたが、シーパル大船渡野外特設会場では、大船渡港に前日水揚げされたさんま2,500匹の炭火焼きが無料でふるまわれ、香ばしいさんまのおいが漂う中、地元の旬の味を楽しんでいました。

大船渡市さんまつり実行委員会会長の佐々木英一さんは「漁獲量も徐々に回復してきているので、大船渡の美味しいさんまを多くの人に味わってもらいたい」と話していました。



おいしそうにさんまを食べる子ども



提供されたさんまの炭火焼き

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。

第5回目は、遠藤 ゆりえさんを紹介します。

PROFILE

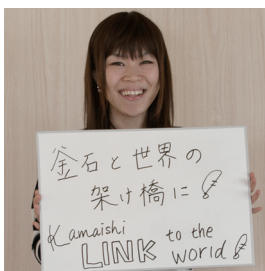
釜石市出身。東京で仕事をしていましたが、地元で仕事をしたいと思いUターンし、公益財団法人釜石・大槌地域産業育成センターに勤務。2010年10月ニュージーランドに渡る。2011年の秋、釜石の復興に貢献するような仕事がしたいと考え帰国。2012年5月、国際交流及び復興への貢献を目的とした「NPO法人かまいしリンク」を設立し代表を務める。

得意な分野で復興に貢献したい

海外で暮らした経験を持つ遠藤さんは、日本の高校生と米国の高校生との交流をはじめ、「災害を勉強したい」「日本の文化にふれてみたい」と望む海外の方々と釜石をつなぐコーディネートや、地域のコミュニティづくりな

未来の さんりく びと

NPO法人かまいしリンク
遠藤 ゆりえ
(えんどう ゆりえ) さん



遠藤さんからのひと言：
釜石と世界の架け橋に！
Kamaishi LINK to the World !

どに汗を流しています。

「私たちの得意な分野で、復興に貢献していきたいと思っています。海外の方々に地域と交流してもらい、同時に釜石の子どもたちが外国に興味を持って視野を広げるキッカケづくりをしたいです」と遠藤さんは話します。

海外との交流のためのカフェもオープン予定

10月上旬には、海外との交流を通じた地域づくりを目指し、釜石市鶴住居（うのすまい）にカフェをオープンする予定の遠藤さん。

「ラグビーワールドカップを釜石に誘致しようという動きがあります。ラグビーは釜石のアイデンティティーみたいなもの。実現すれば当然外国人も来る。ラグビーを通して地元の人たちが活気づき、復興の気運を盛り上げていったらいいですね」と釜石の未来を語りました。

岩手県の被害状況

平成 25 年 8 月 31 日現在

- ▶ 人的被害 死者：4,672 名 行方不明者：1,145 名
- ▶ 建物被害（住家のみ、全半壊） 25,023 棟

被害状況等の詳細

義援金・寄付金の募集等

いわて防災情報ポータル

検索

皆様のご支援、ありがとうございます

平成 25 年 8 月 31 日現在

- ▶ 義援金受付状況 約 178 億 3,587 万円 (86,495 件)
 - ▶ 寄付金受付状況 約 165 億 8,889 万円 (6,261 件)
 - ▶ いわたの学び希望基金受付状況 約 59 億 748 万円 (10,945 件)
- ※ 被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

ビジュアル豊富に【いわて復興だより [Web](http://iwate-fukkoudayori.com)】がスタートしました。http://iwate-fukkoudayori.com

いわて復興だより 第 48 号 平成 25 年 9 月 15 日 企画・発行：岩手県復興局総務企画課 ☎019-629-6925

いわて復興だよりバックナンバーは

いわて復興だより

検索

編集・印刷：シナプス